

# 論壇

大企業からベンチャーへ

私ごとで恐縮だが、なぜ研究者になったのかと聞かれることがある。いろいろ考えてみたが、次のような答えが最も適切であるようだ。「大学で教えるを受けた先生の中に何人が輝いている方があり、自分もあのような世界に入れたらよいなあ」と感じたことだ。

当時の東京大学の経済学部には、世界的に著名な先生が何人かいらした。その授業は難解で理解できないところもあったが、それでもおおいに刺激を受けたことは間違いない。自分があのレベルの研究者になれるとは思わ

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

なかつたが、それでも少しでもその境地に近づきたいと考えたものだ。

要するに当時の私には、目標になるようなロールモデルがあつたのだ。若者にとつて、これからの職業選択や人生の生き方など、自分には分からないことだらけだ。自分で判断することも難しい。近

## 変わる若者のロールモデル

くに参考になるようなロールモデルがあることは本当に重要なことだ。

では最近の若者には、そうしたロールモデルはあるのだろうか。そうした視点で、最近まで教えてきた東京大学の学生を見ていると、興味深い動きが見られる。私

が教えた学生の中に、ベンチャー企業を立ち上げる人が増えてきたことだ。大学を出てすぐというわけではない。大企業などで5年や10年の経験を積んだ後で、自分の会社を立ち上げる若者が増えてい

る。ひと昔前には考えられないことだ。大企業や役所に勤め続け

る人が大半だったからだ。そうした世界で成功した先輩たちが若者たちにとつてのロールモデルとなり、自分たちもその世界に入っていくた。

ところが、最近は大企業や役所に勤め続ける人が、若者にとつて必ずしも理想的なロールモデルに

はなっていないようだ。それよりもベンチャーを立ち上げた先輩の方がロールモデルとして輝いているようだ。だから、自分もその世界でチャレンジしてみたいと、会社を立ち上げる若者が少しずつ増えている。

ベンチャーで成功する若者が増えると、それを次の若者が自分のロールモデルとして追っかける。それでさらに企業を立ち上げる若者が増える。そうした好循環が私の周りの若者の間で起きているようだ。

### 新技術や発想勝負の時代

好循環と言ったが、より多くの若者がベンチャーにチャレンジすることは、日本にとつても好ましいことだ。日本が欧米にキャッチ

アップする時代であったなら、多くの優秀な若者が大企業に入つてみんなで一丸になつて頑張るといふのが好ましい姿だったのかもしれない。大企業でなくても、地域の中小中堅企業が企業と一丸になつて欧米にキャッチアップすることが求められていた。

しかし、日本も世界のフロンティアに出て、新しい技術や斬新なアイデアで勝負するような時代には、もつと多くの若者が新規ビジネスにチャレンジすることが望まれる。また、日本を支えてきた中小企業の多くで、経営者が引退の時期を迎え、後継者が見つからないところも少なくない。だからこそ、新規に企業を立ち上げようとする若者が増えることが必要であるのだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。